

LIBRARY NEWS

令和5年4月21日 No.1

新座市立第三中学校

校長 石田 和男

(図書室だより) 図書整理員 名本 浩子

三中近くの黒目川沿いの桜は、すっかり新緑に変わり、その桜と並んで植えられたツツジが、次は自分たちの出番だとばかりに、ピンクのつぼみを膨らませています。芝桜もそれに負けじと鮮やかなピンクのじゅうたんを敷き詰めています。そんな日常の小さな発見にも、心が癒やされたり、幸せを感じたりするものです。

新入生のみなさん、在校生のみなさん、入学、進級、おめでとうございます！開室準備中のときに来室してくれたり、今年度もたくさん本を借りに行くと呼びかけてくれたりと、開室を心待ちにしていることをうれしく思いました。今年度も、みなさんが読みたいと思う本をそろえた、安らぎのある図書室づくりに努めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

1つのテーマについて、インターネットで検索するのは手軽ですが、図書室では、テーマに関する資料を、何種類も、何冊も、同時に集められ、時間をかけて見比べながら調べることができます。苦勞して調べたことは、自分の知的財産になり、学びと生活を豊かにしてくれます。本との出会いによって、心も豊かになります。これまでの研究で、読書を続けていると、脳のつながりが強化され、記憶力や集中力が向上したり、30分の読書がストレスの身体的、精神的サインを減少させたりすることがわかっています。むずかしいことは抜きにしても、読書は、身体や心の健康によい効果をもたらすということです。

本を読んで、初めて知ったことへの驚きや喜び。もっといろいろ、もっと詳しく知りたいと思った。また、心ふるえるような体験をしたいと思った。読書で味わった、あのなんとも言えない感情。本のページのどこかで、あなたの心を揺さぶるような、あなたの心を癒やしてくれるような、あなたを幸せにしてくれるような言葉や話に出会うかもしれません。

あなたを夢中にさせる本は、どんな本でしょう。そんな本との出会いが楽しみです。まずは図書室にどんな本があるのかを見に来ませんか。みなさんとの出会いを楽しみにしています。

お待ちしました！いよいよ開室します！！

互いに利用する人のことを考え、みんなが安心して気持ちよく利用できるようにご協力をお願いします。



図書室の利用について

[貸し出し・返却について]

利用は、昼休みも放課後と同様に全学年、利用可能です。

- ① 一度に借りられる冊数は、**3冊**です。
- ② 貸し出し期間は、**1週間**です。**返却期間を必ず守ってください。**もし、期間内で読み終わらない場合は、一度返却の手続きをして、再度借りるようにしてください。
- ③ 図書室の開室日は、「図書室開室予定表」で確認してください。返却予定日に図書室が閉まっているときは、図書室入り口前の、『返却BOX』に返却本を入れてください。

[図書室での過ごし方]

引き続き、新型コロナウイルス感染予防を意識しての利用をお願いします。

- ① 入室、退室の際には、手を消毒しましょう。
- ② 室内では、貸し出しや返却の手続きなどの必要な会話以外は控えてください。図書室では、本の貸し借りだけでなく、読書したり、勉強したりする人もいます。室内では、静かに過ごしましょう。
 - ・室内で本を読んだり、資料を見たりする場合は、所定の場所に座って、落ち着いて取り組みましょう。
 - ・本の貸し出しや返却の手続きの際には、密にならないようにして順番を待ちましょう。

詳しくは、
「図書室 利用案内」で
確認してください。

今月、4月12日(木)に「本屋大賞」の受賞作が発表されました。書店員の投票だけで選ばれる「全国書店員が選んだいちばん！売りたい本『本屋大賞』」。2003年から始まり、今年20周年を迎えました。その記念すべき20回目の大賞は、^{なぎら} 風良ゆう さんの『汝、星のごとく』でした。

ここでは、現在、図書室にある、『本屋大賞』受賞作品を紹介します。

【本屋大賞】

『汝、星のごとく』

風良 ゆう/著 (講談社)



紀伊國屋書店スタッフが推薦する『キノベス! 2023』でも1位を受賞。

2020年の『流浪の月』に続いて2回目の大賞受賞。

瀬戸内の島で育った高校生の^{あきみ} 暁海と^{かい} 転校生の^か 權。物語は二人の15年にわたる恋愛と人生をたどっていく。

境遇の似ている二人は互いを必要とし、一緒に島を出る約束をするが、暁海だけが母を見捨てられず島に残ることになる。

この愛は、世間的には正しいと言えないかもしれない。でも、生きたいように生きたい。すれ違う恋の果てに、暁海が選んだ道とは。

【4位】

『爆弾』

呉 勝浩/著 (講談社)



『このミステリーがすごい! 2023年版』(宝島社)、『ミステリが読みたい! 2023年版』(ハヤカワミステリマガジン2023年1月号) 国内篇 ^{へん} 1位。驚異の2冠!

些細な^{ささい} 傷害事件で野方警察署に連行された中年男。ところが、取り調べ中に男は、自分には靈感があると言い、爆弾を仕掛けたことをほのめかす。

人質は東京都民1400万人。爆弾はどこに仕掛けられているのか。密室の取調室を舞台に、爆弾魔と警察の頭脳戦が幕を開ける。

【8位】

『宙ごはん』

町田そのこ/著 (小学館)



主人公の^{そら} 宙には、産みの母(花野)と育ての母(風海)二人の母がいる。風海と一緒に海外に行くことより、産みの母と生活することを選んだ宙だが、花野は子どもの世話がまったくできない人だった。

娘の愛し方がわからない母とそんな母に甘えられない娘。家族になりきれない二人が食べることを通して成長していく物語。

ごはんが空腹を満たすように、読者の心に栄養を与え、温かな気持ちでいっぱいしてくれる作品です。

【9位】

『川のほとりに立つ者は』

寺地はるな/著 (双葉社)



いま隣にいる人をもっと大切にしたい本を書きたいと思いました。

主人公の清瀬は、恋人の松木と^{そえん} 疎遠になっていた。原因は彼の隠し事。そんななか、松木がけんかで歩道橋から落ち、意識不明だという連絡を受ける。その後彼の部屋に入った清瀬は三冊のノートを見つける。二冊には、子どものような^{つたな} 拙い字、そして一冊には手紙の下書きのような文章。

松木が隠そうとした胸を打つ真実とは……。

歴代の本屋大賞の本もそろっています。

他の受賞作品

【2位】『ラブカは静かに弓を持つ』

安壇美緒/著(集英社),

【3位】『光のところにいてね』 一穂ミチ/著(文藝春秋)

【5位】『月の立つ林で』 青山美智子/著(ポプラ社)

【6位】『君のクイズ』 小川哲/著(朝日新聞出版)

【7位】『方舟』 夕木春央/著(講談社)

【10位】『#真相をお話します』 結城真一郎/著(新潮社)も、夏休み前に購入予定です。楽しみにしていってくださいね。



4月23日は、「こども読書の日」



2023年・第65回
こどもの読書週間

4月23日～5月12日

標語「ひらいてとじた

笑顔がふえた」

ゴールデンウィークをはさむこの期間、読書で心の栄養をたっぷり蓄えてみてはいかがでしょうか。